

タバコカスミカメおよびクレオメの利用による ニラのネギアザミウマに対する防除効果（情報）

農業技術センター

〔背景・ねらい〕

高知県の基幹品目である施設ニラでは、ネギアザミウマが発生し、本種が媒介するアイリスイエロースポットウイルス(IYSV)によるえそ条斑病や加害による被害が問題となっている。しかし、ニラは準メジャー品目であることから、適用登録農薬が少ないうえに、近年は薬剤感受性の低下が顕著な個体群が確認されており、薬剤のみに依存しない総合的な防除法の開発が急務である。

そこで、ネギアザミウマに対し、タバコカスミカメおよびクレオメの利用による防除効果を明らかにする。

〔技術の内容・特徴〕

1. ネギアザミウマに対する防除効果
 - 1) ほ場内の谷部にクレオメを定植し、タバコカスミカメを放飼した場合のネギアザミウマの密度は、試験Aでは対照区と大差なく(図1)、試験Bでは、3月中旬までは低密度で推移したが、その後、上昇した(図2)。また、両試験において試験期間を通じてニラ葉上でタバコカスミカメは確認されなかったことから(データ省略)、ネギアザミウマに対する防除効果は判然としなかった。
2. クレオメの植栽による影響
 - 1) ほ場内にクレオメを植栽することにより、収穫作業などの作業性が低下するとともに、一部のニラでは日射が遮られ、生育が抑制された(図3)。
 - 2) クレオメ葉上でネギアザミウマは確認されなかった(データ省略)。

〔留意点〕

1. 試験Aの耕種概要
 - 1) 面積: 天敵放飼区11a(4連棟)、対照区15a(5連棟、天敵放飼区に隣接するほ場)
 - 2) ニラ‘タフボーイ’、2022年5月下旬定植、うね幅200cm、株間28cm、条間28cm、5条植え
 - 3) 8月9日に天敵放飼区にクレオメを90株定植し、11月4日にタバコカスミカメを1,100頭放飼した。
 - 4) 薬剤防除は農家慣行防除で実施した。
2. 試験Bの耕種概要
 - 1) 面積: 6.5a(2連棟)、対照区なし
 - 2) ニラ‘ミラクルグリーンベルト’、2022年7月22日定植、うね幅240cm、株間28cm、条間28cm、5条植え
 - 3) 8月16日にクレオメを90株定植し、11月25日にタバコカスミカメを1,600頭放飼した。
 - 4) 薬剤防除は農家慣行防除で実施した。

[評 価]

施設ニラのネギアザミウマ防除を行う際の基礎資料として活用できる。

[具体的データ]

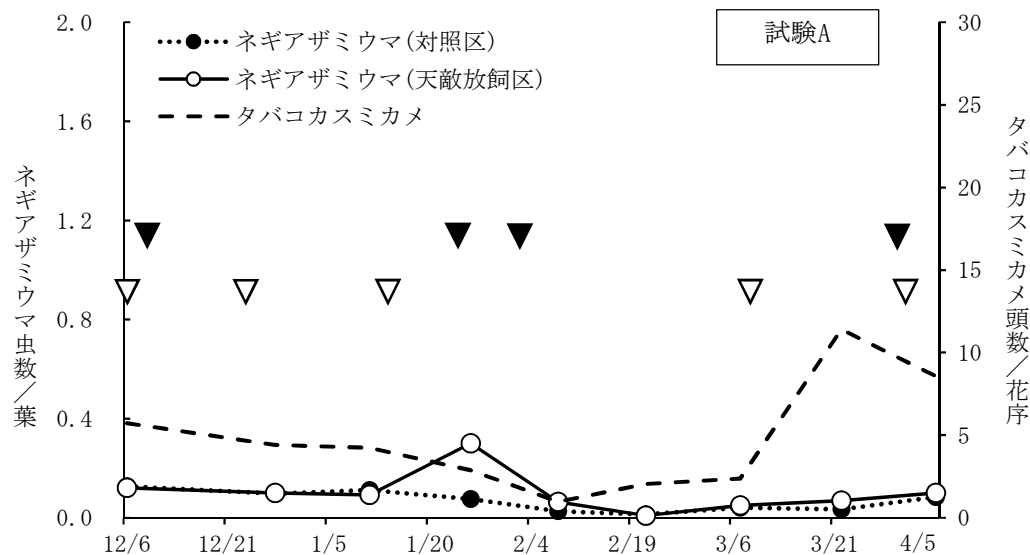


図1 ほ場Aでのネギアザミウマおよびタバコカスミカメの密度推移 (2022)

注1) ほ場Aでの2022年12月6日から2023年4月5日までの害虫および天敵の密度推移。

2) ▽は天敵放飼区、▼は対照区でのネギアザミウマを対象とした薬剤散布。

3) 調査方法：ネギアザミウマについては天敵放飼区では最大で50株、対照区では最大で40株について1株あたり3葉に寄生するネギアザミウマ頭数を見取りで調査した。なお、収穫直後の調査ができない期間が発生したため、調査株数は調査毎に変動した。タバコカスミカメについてはクレオメ30株について1株あたり1花序(先端から約20cmの範囲)に寄生するタバコカスミカメを見取りで調査した。

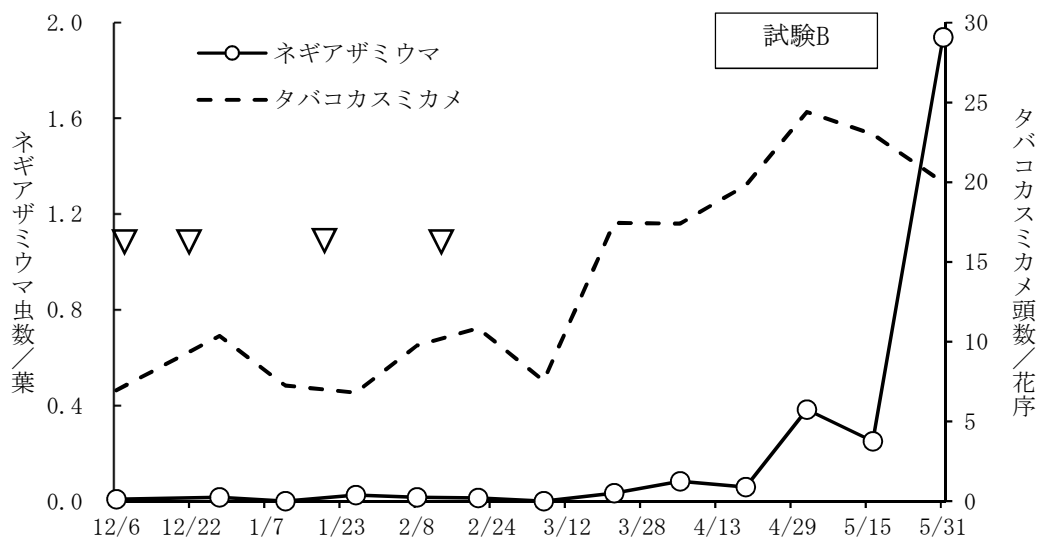


図2 ほ場Bでのネギアザミウマおよびタバコカスミカメの密度推移 (2022)

注1) ほ場Bでの2022年12月6日から2023年5月31日までの害虫および天敵の密度推移。

2) ▽はネギアザミウマを対象とした薬剤散布。

3) 調査方法：ネギアザミウマについては最大で40株について1株あたり3葉に寄生するネギアザミウマ頭数を見取りで調査した。なお、収穫直後の調査ができない期間が発生したため、調査株数は調査毎に変動した。タバコカスミカメについてはクレオメ30株について1株あたり1花序(先端から約20cmの範囲)に寄生するタバコカスミカメを見取りで調査した。



図3 ほ場B内のクレオメ（2022年）

注1)2022年11月25日撮影。

〔その他〕

研究課題名：施設ニラにおけるネギアザミウマの防除技術の開発

研究期間：令和3～5年度

予算区分：県単

研究担当：昆虫担当

分類：情報